

循 環 器 精 密 検 診

動 向

当協会の循環器外来では、人間ドックなどの健診で精密検査が必要と判定された受診者に対し各種循環器系検査を行い、専門医療機関への受診が必要かどうかをチェックしている。また、脳血管疾患や心疾患のリスクとなる生活習慣病改善のための指導や治療もっており、健康教室や健康体力相談など種々の生活習慣病改善プログラムにも対応している。

「成人病」から「生活習慣病」と呼び方が変わり、多くの病気がライフスタイルの改善により予防できるという認識は広まっているが、高血圧、糖尿病、高脂血症等の生活習慣病の患者数は減少する傾向がいまだみえない。当循環器外来では、循環器疾患の早期発見に努めるとともに、種々のプログラムを活用しながら一次・二次予防にも積極的に取り組んでいる。

方 法

当協会の循環器精密検診は、横浜市立大学病院からの応援医師を含め循環器専門医が担当している。外来では、トレッドミル運動負荷試験、呼気ガス分析、心臓・大血管のカラードップラー超音波検査、24時間ホルター心電図、頸動脈超音波検査などの諸検査と医師の診察、保健指導を半日で効率よく受けることができる。さらに精密検査や専門的治療が必要な方は専門機関に紹介し、その他は近医や協会でのフォローとしている。

また、2001年4月から始まった労災二次健診(肥満、高血圧、高血糖、高脂血症の4項目すべてに異常が見られる者に対する二次検査)において、当外来では頸動脈エコーやトレッドミル負荷心電図(または心臓超音波検査)を担当している。

結 果

平成14年度、新規に循環器精密検診を受診した者は、計156名(男性107名、女性49名)で、年齢は平均58.8±11.6歳(27~85歳)であった。

受診者の流れをみると、人間ドックから125名、ACクラブから9名、産業保健6名、その他16名である。受診理由は、一次検査異常からの受診が111名(心電図異常68名、心雑音13名、心拡大・心陰影異常6名、高血

圧10名、代謝異常11名、ヘリカルCTにおける冠動脈石灰化1名、腹部大動脈瘤疑い2名)であり、胸痛などの自覚症状からは45名である。

精密検査の内容は、トレッドミル負荷試験85名、心臓超音波検査70名、24時間ホルター心電図34名のほか、頸動脈超音波検査等である。トレッドミル負荷試験の判定結果は85名中、陽性21名、境界域16名、陰性48名であり、陽性率が非常に高かったと言える。陽性者の多くは専門機関に紹介され、心臓カテーテル検査や心臓核医学検査(心筋シンチグラム等)の結果、PTCAやステント留置などの血行再建術を受ける者もあった。心臓超音波検査からは、高血圧性心肥大12名、弁膜症14名のほか、肥大型心筋症4名が診断された。ホルター心電図では洞不全症候群が発見された。

精査の結果から、最終的に心配なしと判断されたのは47名、健診で経過観察すればよいもの20名であった。さらに精密検査や定期的に検査を行う必要があるものおよび治療が必要なもの88名で、この内18名は横浜市立大学病院、市大センター病院、横浜市南部病院などに紹介された。今後も当外来でフォローしていくものも60名と非常に多い。

循環器精密検診受診者の検査データ(表1)をみると、人間ドック全受診者との平均値の比較では明らかな差は認められない。しかし、内服治療中の項目も含めて動脈硬化危険因子を抽出すると、何らかの危険因子を有するものは156名中129名(83%)と大半を占めている。

労災二次健診を受診された50名の一次健診時のデータは、年齢50.8±10.9歳、肥満度31.2±19.3%、総コレステロール227±33mg/dl、トリグリセライド286±257mg/dl、空腹時血糖132±27mg/dl、収縮期血圧150±17mmHg、拡張期血圧95±11mmHgであった。循環器検査を行った結果、トレッドミル負荷心電図で陽性または境界域が17名(36%)、経動脈エコーでは13名にプラークが認められた。

さらに、生活習慣病改善プログラムなどにおいても、延べ90件の呼気ガス分析を含む運動負荷心電図検査を行ない、安全かつ有効な運動指導のために活用している。

関係の集計表は122頁に掲載